

## 南富士山産業連携研究会 FCRUM（フクラム）キックオフイベント 議事録

令和2年2月12日（水）

### 1. 概要

フクラム設立に伴う設立イベントを実施。

と き：令和2年2月12日（水）15：30～17：15（15分超過）

ところ：裾野市役所4階401会議室（静岡県裾野市佐野1059）

参加者：産業分類、規模等問わず市内外61団体（事業者・自治体含む）、77人

報道機関取材：静岡新聞社、日刊静岡、TOKAI ケーブルネットワーク（CATV取材）

### 2. 議事録

#### ●開会挨拶（裾野市長 高村謙二：以下 市長）

裾野市には今、トヨタの実証都市の話が出てきている。みなさんそれぞれの心の中に期待や思惑があると思う。今回は行政（裾野市）と本研究会の主体の一般社団法人南富士山シティが考えていることなどを皆さんに知っていただき、産業連携・産業振興について地域として何ができるかを一緒に考えていく場。

1月15日に県庁で、豊田章男社長と川勝平太県知事、私（市長）で話をさせていただいた。トヨタ自動車東日本の跡地になる敷地での Woven City の構築を進めていくときに、周りの市域と Woven City を閉じてしまうつもりはないとの見解。中はトヨタが取り組んでいく。外は裾野市が取り組む。その取り組みを進めていく中では、市民も地域も一体となって進めていかななくてはならないことであると感じた。

ここで取り組むのは地方都市が抱えている課題といってもいいと思う。そういう課題の解決にチャレンジしていこうと思う。

裾野市側としては、これを契機とした地域の課題解決を進めていく仲間を募ることに對して「この指とまれ！」をしていきたい。

その題材として「次世代型近未来都市構想」を作成している。皆さんには自らの技術やスキルが使える、またはビジネスになるかもしれないという視点やモチベーションで是非参加していただきたい。

そのための関係性を作っていくためのフクラムと位置付けて、キックオフイベントを開催する。お互いに有意義な時間になれば。

#### ●南富士山シティの取り組み紹介とフクラム趣旨（鈴木大悟 代表理事：以下 鈴木）

##### <自己紹介>

自身は地元家具メーカーの3代目。南富士山シティの代表理事はボランティアとして取り組んでいる。

### <一般社団法人南富士山シティの取り組み>

富士山の南側一帯を一つの都市として考えると 1000k m<sup>2</sup>、100 万人都市になる。そのように広域で全国にこの地域の魅力を発信していこうという理念で取り組みを開始している。地域の“わくわく”するとりくみとして、続けている3つの主要な柱を説明する。

#### ◆産業連携促進事業

地域で儲からないという課題については中小企業相談や創業支援相談を受けたり、ツリーハウスプロジェクトというプロジェクトをたちあげ、NPO 法人の承継問題を“わくわく”する話題からアプローチするなどに取り組んでいる。

#### ◆アウトドア事業

誰も来ないということは、魅力が十分に伝わっていない。これを解消するために雄大な自然を味わってもらうためにはキャンプが最大のコンテンツと仮定して取り組みを開始。アウトドアメーカーのスノーピークと提携して手ぶらで裾野に来て設営もサポートするキャンププログラム「手ぶらキャンプ」を進めて認知の向上と魅力の発信に力を入れている。

#### ◆定住移住促進事業

地域に若者がいないなどの課題に対して、移住定住の側面からアプローチをするため、東京有楽町のある移住相談センター（ふるさと回帰支援センター）でイベントに参加することや、センターと連携して裾野市の認知向上、移住の相談を受けるなどの取り組みを進めている。

これらの取り組みはそれぞれ相互関係がある。地域でスタートアップを促進しようとしてもなかなか進まないときに、移住定住も併せて考え、そのライフスタイルとして“わくわく”する自然体験などを絡めるといふ、相互連携をする取り組みとなっている。

地方創生が叫ばれてから、会議室で付箋紙を使ったワークショップを進めてきていたが、具体的な取り組みにはなかなか広がっていかないという経験をしている人も多いと思う。我々はその付箋を破り捨てて、外に出て小さな“わくわく”する取り組みを積み重ねていくことが近道だと感じた。

例えば、南富士山シティの取り組みを始めたときに、ちょうど市営のキャンプ場の閉鎖の話があり、自身がネットで「何とかこのキャンプ場の再生をスノーピークさんとできないか」とつぶやいたときは何の反応もなかった。

しかし、そこから手ぶらキャンプに取り組むなど小さな一歩を踏み出し始めたら、今日も会場にお越したが、キャンプ場再生に取り組んでくれる事業者さんが出てきて、団体として提携しているスノーピークさんをおつなげすることができたという、成果につながっている。

### ＜フクラムの趣旨＞

この集大成がフクラムと考えている。富士山の F と、この地域でスクラムを組むということで造語として FCRUM と名付けた。

行政っぽい固い冠はついているが、我ながらナイスなネーミングだと思っている。産官学金言といった様々な分野が連携することで、この取り組みが加速し、互いの課題や取り組みを共有することで、地域経済の活性化・発展を目指す研究会と位置づけている。

重要なのはスモールスタートから大きく膨らめていくという理念。この研究会の設立にあたり、ロゴマークは市内のお蕎麦屋さんの2代目がかつてデザイン事務所に勤めていたデザイナーの齋藤さんをお願いした。齋藤さんは家業を継ぐために戻ってきたが、これまでのデザインも続けていきたいという思いをうかがい、小さく始める連携が進んだ結果の一つでもある。

また行政の境界線を越えることも必要で、近隣の自治体職員の皆さんも参加していただいている。地域でスクラムを組んで“わくわく”する地域の未来を切り開いていくきっかけにしたい。

## ●パネルディスカッション

### テーマ／FCRUM のこれからの活動と裾野市の産業の未来

#### 【1 登壇者照会】

(司会 鈴木)

それでは今今より FCRUM キックオフ記念パネルディスカッションを開始いたします。まずは登壇者の皆さんを私の方からご紹介をさせていただきながら、お一言ずつお話いただきたいと思います。まずは裾野市高村市長です。市長からはこの FCRUM に期待したいことをお一言いただきたいと思います。

(市長)

これまでは街づくりは行政の仕事という認識。これからは民間の活力も積極的に取り入れて、取り組んでいかななくてはいけない。市民協働のもと、縦の連携、横の連携、斜めの連携…どんな連携があるかわからないが、フクラムにはその調整の役割を期待している。

(鈴木)

続いて私たち南富士山シティの名誉アンバサダーであります勝又幹英(以下 勝又)さんです。勝又さんは裾野市出身で現在は政府系官民ファンド(株)INCJの代表取締役を務められていらっしゃいます。裾野市内にご自身のコンサル会社もお持ちで今は手弁当で当団体の活動に様々ご尽力をいただいております。勝又さんには特に経済面で外から見たこれ

からの裾野市の可能性という観点でお一言付け加えていただきご挨拶いただきたいと思  
います。

(勝又)

やっている仕事は官民ファンドなので日ごろから日本の産業競争力や地方創生という固  
い話をしてしまいがち。今回は私の実家もすぐそこにあるし、3年前に大悟さんに相談され  
て、身近なこととして関わりたい。この地域だけでなく社会が抱える大きな課題として生産  
労働力人口の減少とその結果でもあり原因でもある高齢化社会、環境問題やいろんな社会  
資本が少なくなっているなどがある。これはどうしようもない課題かといえばそうではな  
く、産業界では様々な技術の進展として、コンピューターがパドリングできる能力、5Gの  
到来、センシングデバイスの発展…社会実装できるための技術が進んできている。

裾野市はそういう意味でちょうどいい位置づけであると感じる。都会でもないし、ものす  
ごい田舎でもない。来るべき第二期の地方創生の絵を描くにはチャンスを秘めている。そう  
いう意味で、私自身も大変“わくわく”している。

(鈴木)

続いて南富士山シティ事務局長の山田さん(以下 山田)です。彼は去年の4月より当団  
体の事務局長を務めていただいておりますが、もともとは沼津で2つのコミュニティスペ  
ースを運営しており、昨年は「大家の創業支援」というタイトルで静岡グッドデザイン賞も  
受賞しております。山田君からは南富士山シティ以外の活動の紹介も含めて一言ご挨拶を  
お願い致します。

(山田)

沼津でシェアスペースを2か所運営している。空き家を使った展開をすすめている。南富  
士山シティではこれまでの経験をもとに創業支援や連携促進のための関係構築などに取り  
組んでいる。

## 【2 FCRUMについて】

(鈴木)

FCRUMは冒頭でもお伝えした通り、皆さんでスクラムを組んで地域の“わくわく”する  
未来を目指し、小さな動きを大きく膨らませていくということを理念にしております。実は  
この小さなことを少しずつ膨らめていくことは山田事務局長の得意とすることですが、彼  
は地域の有能な一人ひとりのプレーヤーを見つけ出し、そこにスポットを当て繋げていく  
ということにたけています。今後FCRUMの運営に際し具体的にどのような取り組みを行  
っていきますか？

(山田)

具体的には、「飲み会」を仕掛けています。飲み会……だけではなく、実は大勢がいる中で腹を割って話をするというのはとても難しく、小規模な飲み会の席で、なにか“わくわく”を創出してその場から発展するものを拾っていくという活動をしている。古くからあるやり方だが、この時代にとっても大事だと思っている。

(鈴木)

出席者同士の属性や話している内容から、背後から繋げていったりするコミュニケーターとしてとても長けている。フクラムでもそういった取り組み方法を取り入れてやっていると思う。言ってみれば、ハイパー飲み会を仕掛けることで、産業の活性化につながる流れを生み出している。

一方で今日も勝又さんのご紹介で多くの大手企業の方がご参加していただいておりますが、今後この地域とこうした企業の方々とがどのように連携しお互いがWIN-WINの関係を築くための何かヒントはございますか？

(勝又)

産官学金言の参加者のつながりの話があったが、流行りで言えばオープンイノベーション。新たな社会実装のためのビジネスを作っていくときには伝統的な金融機関に加えてベンチャーキャピタル（VC）のかかわりもあり、オープンプラットフォームとして機能していく可能性もあると感じている。

(鈴木)

地域の中小企業は資金調達の課題はある一方で、VCの投資やエクイティ（株式資本）の話は別次元の話に感じてしまうが、そういう点について具体的にどう解釈したらよいか

(勝又)

必ずしも地方に優れた製品やサービスがあるとは限らない。ただ、地方ならではの課題があって、例えば、大分県で牛の分娩が10%うまくいかないという損失課題があったときに、いかに効率を上げるかというセンシング技術を使ったデバイスを開発した。これに大分銀行さんがお金を貸していた。地銀さんもぜひ技術を広く広めていきたいと思っていたが、VCの活用でうまくいったという例もある。

(鈴木)

そもそもそういう手段があるということを知らないこともあるということ。フクラムはこういう情報収集の場にもなる。

市長にお伺いしますが、こうした外部の企業さん、また市内やその周辺の地元企業が連携し合っていく中で行政の役割とはどのような点にあるとお考えになられますか？

(市長)

まずは、地域の一人として個人的には山田さんが仕掛けるハイパー飲み会には激しく参

加させてもらいたい。行政としては、ビジネスとして課題解決してくれる人たちがこの場において、一方で地域課題は行政が知っていることがある。課題、困っていることを皆さんに積極的にオープンにしていくことが今やれる役割だと感じている。

また、解決策が思いついた時の規制への対応などを担っていくのが行政に課せられた使命とも感じている。

(鈴木)

裾野市はデータ利活用の視点からデジタル裾野研究会という ICT の取り組みも進めていて、ビッグデータなど（オープンデータ、統計データなど）を広く公表していくことでどう解決していくかという材料になる。連携のためには ICT の活用も積極的にやっていかなくてはならない。

### 【3 TOYOTA WOVEN CITY の地域への影響】

(鈴木)

この話題に触れないわけにはいかないです。今裾野市はトヨタさんの Woven City の発表で世界からも注目を浴びていますが、今後地域にどのような可能性や影響があると想像されるかそれぞれのお立場からお話をいただきたいと思います。

まずは市長にお伺いしますが先日静岡新聞さんにもインタビューが掲載されていましたが、今後のまちづくりにおいてどのような影響やチャンスがあるとお考えになりますか？

(市長)

敷地内はトヨタさん、周りは裾野市がやっていく前提だが、その境界線をしっかり擦り付けをしていく必要があって、パイプ役をフクラムに期待している。あとはスピード感が必要になってくるので、皆さんのノウハウやお知恵を借りてやっていかなくてはならない。

Woven City の地域への影響としては、今後プロジェクトが進むにつれて規制緩和などのアプローチが可能になるとすればそのためのカードになるという認識でいる。皆さんとスピード感をもって取り組んでいきたい。

(鈴木)

勝又さんにお伺します。産業面においてどのような影響やまたチャンスがあるとお考えですか？

(勝又)

これはとても奥行きのあるテーマだと感じる。どうしてもトヨタさんがやると自動運転や CASE(Connected Automotive Sharing Electricity)の話になるが、おそらくトヨタさんは自動運転を極めるためだけに取り組むわけではないのだろうと思っている。

もちろんそこ（自動運転を極める）も大切。しかし、どちらかというところ、ビジネスモデルとしても一つ上の概念の MaaS(Mobility as a Service)の話で、今まで提供できなかったもの（人、モノ、サービス）を提供されるというところに影響がある。

自動車産業のティア 2、ティア 3（産業の請負や部品供給における 2 段階、3 段階・・・というサプライチェーンの繋がり）といったところへの影響だけでなく、生活全体に影響があるという話。

想像にはなるが、さらにズームアウトすると、実験都市を通じて Society5.0 という、いわゆる「欲しい人が欲しいものを欲しいときに欲しいだけ」提供を受けるという、モノやサービスのこれまでのマスプロダクションから、パーソナライゼーションやサービタイゼーションに進んでいく。データの活用によって可能になる概念で、人とバーチャル（デジタル）をつなぐラストワンマイルになってくる。

（鈴木）

私の稼業の話でいえば、ソファを配送する物流にコストがかかる。こういったところへの影響も考えられるのではないかと考えている。市民を含め、それぞれの皆さんの立場でも影響がある話だと感じた。

山田さんにお伺いします。一方で私たち一市民には話が壮大過ぎていまひとつ私たちの暮らしにどんな影響があるか想像しにくい部分も多々あるのですが、周辺地域の市民としてどんな未来が想像できますか？

（山田）

裾野にかかわり始めて、ここには沼津や三島と違った面白さがある。ちょっと未開拓のイメージがある。大きな企業に加えて、中小企業やフリーランスがいて、それぞれの間に余白があるので、そこが繋がるととても面白いことが起きる可能性を感じる。

（鈴木）

南富士山シティを始めた当初、フリーランスを呼び込もうと思って始めたが、いきなりはそんな関わりは作れなかった。山田さんにかかわってもらうことで、人が集まってきた。着実な取り組みの積み重ねをすることで一手ずつコネクしていけると良いと思った。

#### 【4 私たちにできること】

（鈴木）

様々な外部要因が取り巻く中で、裾野市をはじめ南富士山地域の産業は大きく揺れ動くとしています。私も地域のいち経営者として地域と共に発展をしていきたいと考えております。私自身は地域を代表し発信するブランドを目指しまだまだ小さな一歩ですが、例えばふるさと納税でソファが売れたり、毎週末多くの県外のお客様がうちのお店に来てくれています。また一方でこの FCRUM を中心とした南富士山シティの活動にも邁進してまいりたいと考えております。それぞれ地域の“わくわく”する未来に対して小さくともやれることがあると思っていますが、最後にお三方にそれぞれ今後取り組んでいくことをお話いただきたいと思います。まずは山田さんから。

(山田)

私にできることは、サイズ感を合わせていくこと。スーツ的な言い方をすれば里山保全整備なのかもしれないが、私服で考えてみればツリーハウスを作ったり間伐材の利用でスウェーデントーチを作ってみたり…楽しいと思い、関わる人が増えてくればつながってくる。“わくわく”のサイズ感に合わせてフェイスブックで発進したところ、新たなつながりが生まれ、首都圏からわざわざ今日来てくれている方もいる。

そんなように現場のサイズ感に合わせて発信していければよいと思う。小さな一歩から遊び心を忘れずに取り組んでいくことを大事にしていきたい。

(鈴木)

取り組み規模としてサイズ感が違う交わりも今回の取り組みの一つでもある。

勝又さんは南富士山シティの発足時から名誉アンバサダーとしてサポートしていただいています。実はもうお一方、名誉アンバサダーがいるので、紹介させていただきます。英国大学 MBA 修士課程の教授である、鎌田さんです。裾野市を課題の題材にいただき、学生さんに提案を作っていたなど連携をしたり、幅広い経験と視点でのサポートをしていただいたりしておりますので、ここで紹介させていただきました。

続いて勝又さん、私たちにできることという視点で。

(勝又)

産官学金言のつながりは経験からわかる部分はある。人と人とのつながりを大事にした研究会にするという、趣意書にあった部分は大切だと思っていて、個々の人間として一緒にできることがある。あとはトヨタさんも **Woven City** との接続の部分をコミュニティと切り離して考えず、地域と連携・つながっていくことを明言されていることはとてもうれしく思っている。“わくわく”することをどのように発展させていくのか、個の連携の部分でかかわっていききたい。

(鈴木)

最後に高村市長お願い致します。

(市長)

行政はみなさんの“わくわく”するチャレンジを応援する。裾野市はフィールドとして可能性があり、日本の象徴としての富士山のほかに森林（スマート林業）、田園（スマート農業）などもあり、実証を進めてもらうための材料がそろっている。

(大悟さん)



本当に市長の言うような可能性を秘めた魅力的な地域だと思う。ここからは参加されている皆さんが主体として何ができるか、こういったミニワークショップをやっていく。チーム内でディスカッションしていただきたい。

### ●ミニワークショップ

#### 『南富士山周辺地域でやりたいと思うわくわくする取り組み』

- ・ 取り組むテーマ（解決したい課題・理想の状態）
- ・ 各メンバーがプレーヤーとしてできること
- ・ 他のサポート・リソースが必要なこと

各チーム（受付時に職階・肩書き等を関係なくランダムに配席したメンバー構成）でディスカッションし、上記をまとめてもらうワークを実施。

閉会后、名刺交換等の時間を設定。18時完全閉場にて終了。